

2月のことば

学び③ ～物の形状や心を読む力

スキーやスケートは、周囲の状況を考えず滑っていても転んでばかり。
上手く滑るには、氷や雪の状態を見分け、山の斜面・吹く風の方角・強さを感じ取り、
総じて、角度を感じての体重移動と用具の上手な使いこなしが必要です。

世に一流と言われる人は、物の僅かな違いが分かり、微妙な力加減を行ない、繊細に
人の心をつかみます。日本の製品やサービスが良質と言われる所以はここに 있습니다。

<感覚を育てる>

- ・散歩、外あそび（砂・水あそびより）は、感覚運動能力を刺激。
- ・落ち着いて見ることで、同種の植物の色でも様々な違いがあることが分かり、美しさを感じるようになる。
- ・“静かに!!”というよりも、沈黙してみると平素全く気付かない音が聞こえる。
車の音、風の音、鳥の声等を聞き分けて、周辺環境へ理解を深める。
- ・自然素材に触れる事で、つるつる、こつこつ、ふわふわ、ざらざらという形の特性を知り、更に重さ、固さ、温度という物質の特性が分かるに至る。それがやがて、幾何学的形を認識し、数の理解へとつながる。（数の認識は後日記載。）

<空間感覚を育てる>

- ・箱の物を出したり入れたり、又、遊具に自分が入ったり出たりすることは空間認知につながる。将来、運動会の整列も「パンパンシュー」と手を伸ばさずともできるようになる。あらゆる物造りも文化作法も「間合い」の取り方に成否あり。

<記憶力を育てる>

- ・室内ゲームは必ず人数より欠ける台数にして「待つ」状態をつくる。
この待っている間に人の手順を見て記憶。又、ゲームそのものに札を記憶させるような要素を入れる。
- ・次につながるストーリーの話しをして、前の話を回顧してから次に進むようにする。
4、5歳児だと3ヶ月に及ぶ日本神話等の話も全て覚えて話せるようになる。人に話すことで記憶は完了する。

<心を育てる>

- ・大前提は、乳児期に人の表情を読み取れる様になるか否か？ スマートホン、ゲーム、テレビを見せての育児は人の微妙な表情が分からないようになる。
子どもが泣いたり、同じ事を繰り返し求めるのは、人を試しているのである。母の繊細な優しい表情を子どもは見て学ぶ。
それが将来、人の心を察する一流人を育む。

「教育」それは…

雪の下で春を待つ大地の如く。

人生の学びの素地は、保育園時代の生活や遊びの中にあるのです。